

ひびき動物病院 かわらばん 30年 8月号



今月のルーシー(絵:小田島さん)

こんにちは。岡田響です。

大阪の地震や広島岡山の豪雨など災害続きでした。心よりお見舞い申し上げます。幸いなことに私の知人たちにはあまり被害はないようですが、まわりは大変だ、という話を聞いています。現地の方は早く元に戻れるように願うばかりです。農作物や家畜はどうなってるのでしょうか？

8月最後の土曜日に、磯子区役所でペットの災害対策セミナーがあり、お手伝いが丁度決まったところでした。

今年3月に環境省から、ヒトとペットの災害対策ガイドライン、災害時におけるペット救護のガイドラインというものが発表されており、役所、獣医師会、飼い主などは災害時のその時はどう動くべきか？という大枠がほぼ見えるようになりました。(次ページに一部ご紹介) また、

つい最近の産経新聞に岡山県総社市の避難所の記事があり、市内11か所の避難所のうち、3か所がペット同伴者専用として提供され、特に問題等は起きていない、とありました。本当にそうであるならば、相当な(自助)努力と、協力体制(共助)があつての事だと思われまます。これは結構画期的な事でもあるかもしれないのですが、まだ避難生活は大変な時期ですなはずですので、情報収集も迷惑にならないようにあせらず進めていきたいと思っています。災害対策は普段あまり親近感がありませんが、ちょっと聞いて知っておく、というところから少しやっておいて欲しいと思います。脳科学的にも、一度耳にしたことのある、ああ、あの時の話か、というのは結構役に立つそうですよ。



飼い主が行うべき対策の例

平常時

- 住まいや飼養場所の防災対策
- ベットのしつけと健康管理
- 不妊・去勢処置
- ベットが行方不明にならないための対策（鑑札、迷子札、マイクロチップなどによる所有者明示）
- ベット用の避難用品や備蓄品の確保
- 避難所や避難ルートの確認などの準備
- 避難所以外の避難先やベットの預け先の確保
- 飼い主同士の共助のためのコミュニケーションと良好な関係の構築
- 避難訓練への参加と家族単位の避難訓練（シミュレーション）の実施
- 携行できるペット情報のまとめ（治療記録、ワクチン接種歴など）

災害時

- 人とペットの安全確保
- 避難が必要な際のペットとの同行避難
- 避難所や応急仮設住宅におけるペットの適正飼養（飼養マナーの遵守と衛生管理、ペットの健康と安全の確保など）

QRコードを置いておきますので、是非一度ご覧ください。



トリミングは
フレンズさん 045-775-0273 にも相談できます。

今日は何の日？

面白いからやっpegらん、と友達に勧められ、看板に毎日書いてみることにしました。確かに結構面白いです。何が？っていうと、知らないことが知れるのと、結構みんな見ていくんですよね。だから何かみんなの役に立ちそうな話題を選んでみたりしています。そういうのがなんとなく面白いのでしょうか？？診察や入院が大変だと書く時間が遅かったりしますが、とりあえず続けてみようと思います。

酷暑の日が続いています。毎年昼の路面温度を測ったりしていますが、今年はこの看板に温度計を、小型犬やネコの腰の高さ位のところにつけてみました。もともとそんなに下の方で見る温度計ではないので、ちょっと観察しづらいんですけど、この温度が動物たちの体感温度というわけです。40度以上になってます。そして毛皮着ていますので、熱くなった体を冷やすのは毛がない人間よりも大変な作業なはず。NHKの番組でも、ヒトは汗で発熱の効率がよく、他の動物たちよりも持久力があるから狩猟で動物を追えるようになった、という説明がされていました。

なんか納得しますね。お水も持ち歩いて下さいね。



フードは1つ余分に買っておく

災害対策用に、ペットフードも用意を！と、先のガイドラインにも5日分以上の備蓄が言われています。でも実際、それってどのくらい？なんて思ったりもしました。そしたら、

いつものやつを1つ余分に用意して、うまく使い回すというので結構いいかも？という助言を頂きました。

なるほど、これなら難しくないし、使い切れますね！

いざという時には、重量品は安全になったら取りに来る！と考え、身軽なバッグと重量品の備蓄を分ける、とかもありますね。